

行く年*亥...来る年*子 2007年度の活動をふりかえって!!

新春のお喜びを申し上げます

昨年は、東京ではたらくものの音楽祭に多くの会員の皆様と出演することができました。二〇〇八年は秋田で開催されます。日常の成果を発表する場として、日本音楽協議会に結集し働くものの文化活動を交流し前進させていきましょう。

自治労音楽協議会会長 磯野 友一

2008年 元旦



「コント自衛隊」上演 中央 久保敏孝 右 田中路男



第40回はたらくものの音楽祭 女性コーラス

会員からのたより

お久しぶりです。新潟の山田由紀子です。

直樹は2ヶ月半を過ぎました。始めは泣いてばかりでどうなる事かと思っていましたが、成長して、今はとても落ち着いてきました。あやすと喜んで可愛い笑顔をします。声も出ています。

私はアコーディオンの練習を再開しました。さほど上達はしていませんが。

写真コメント

Baby Babaさんの
長男 山田直樹くん0歳



♪ 事務局からの
お知らせ!

みなさまからの投稿をお待ちしております!

E-Mail: jicogawa@jca.apc.org

『自治労音協ホームページ』URL先は<http://www.jca.apc.org/~jicogawa/>

『自治労と音楽のページ』URL先は<http://www33.ocn.ne.jp/~tmatsu/>

『日本音楽協議会のページ』URL先は<http://www.yomogi.or.jp/~uncle/>

「第40回はたらくものの音楽祭」大成功！

自治労は構成詩発表！

全電通会館ホールに全国から300人が結集！

2008年秋田市5月31日〜6月1日に再会を確認！

自治労発表は？「構成詩」

加の渡辺さん、東京の女性6人の活躍で無事構成詩を発表。

最終日9月15日午後『日本国憲法はだれのもの』を発表。初めて参加した青年部の仲間（愛知、新潟）と北海道から参

伴奏は、松本さん（キーボード）、春日井さん（ギター）で「SENSOU」「決意」「月桃」など5曲を含唱、女性コーラスやナレーションを組み



ギター伴奏は春日井さん



「日本国憲法はだれのもの」発表風景



ブービーバンド演奏風景

入れました。

音楽祭は、司会を自治労からは松本敏之（日音協事務局）、遠藤智子（自治労東京）の2名が担当。自治労音協会員の各県支部での活躍が目立ちました。また、連合東京も協賛し、遠藤会長、須永国民運動担当役員

も駆けつけ、40分のシンクアウトに参加者といっしょに歌い、会場はおおいに盛り上がりました。

野外コンサートに出演

3日、野外コンサートが池

公園広場を通り過ぎる人も足を止め、ステージの歌声が池袋西口広場に響き渡りました。

袋西口公園野外ステージで開催されました。会員では愛知県岡崎市職から参加の春日井さん、東京の狭石啓子さんが出演しました。

自治労音協CD制作について …その後の進捗状況とお詫び

桃井雅和(関東甲幹事)

今から遡る事約2年前: 我々が自治労音協のCDを作ろう!と総会及び幹事会で提案したまでは良かったのですが、未だ発表できない状況です(トホホ)。

人作業 限られた時間の中ではなかなか思うように作業が捗らない訳で…。

松本事務局長や他の幹事の方々と収録する曲についての協議を行い、数曲をピックアップし、その作者のみなさんにハガキで収録についての意思確認をしたところまでは良かったのですが、後の作業が思うように進まず、現在まで引つ張ってしまつた次第です。

しかし、このままダラダラと時間ばかりが過ぎて行くのは良くない!ということで、今回の音楽祭には何らかの成果物をお届けしようということになりました。

具体的には現在手元にある音源(3~4曲程度)だけで「ミニアルバム」を先攻リリース(?)します。正式版までにはまだまだ時間がかかると思われるので、それまでの場ツナギという感覚は否めませんが、「今の我々の姿」を見て(聴いて)いただくのはとても意義のあることだと考えます。

これをきつかけに、第二弾、第三弾のミニアルバムを制作して行こうと考えています。

そここうしているうちに曲数もたまり、正式版の完成に一歩ずつ近づいて行くことになるでしょう。

時間と環境が許されれば、録音作業のための合宿も組みたいですね。集まれるメンバーだけでも良いので2日間とか3日間みつちりとレコーディングのために時間を割ければ…などと考えています。場合によっては私がプライベートスタジオ(Studio Back)を拠点にするのもアリかと。いずれにせよ、少しずつでも録音を重ね、音源を増やして行くことが肝要ですね。

作業のペースが非常に鈍くて音協会員のみなさんには大変申し訳ないのですが、どうぞ暖かい目で見守ってやってください。

収録曲のことや、録音・その他CD制作についてのご意見等は私のアドレス meio@olive.ocn.ne.jpまでメールをお願いします。

第15回自治労音協 総会開催!

音楽祭初日、9月14日(金)大音楽会終了後5時から総評会館に23名が出席し開催

2008(7)活動方針と新役員体制を確認した。会長は岩手の伊澤さんに替わり、富山の磯野さんが選出された。(音楽祭がおくれたため08と記入します)

自治労音楽協議会役員体制

会長	磯野 友一 (富山)
副会長	桑野 功 (北海道)
同	細川 剛 (香川)
(ブロック選出)	
幹事	欠員 (北海道)
同	井加田まり (北信)
同	高野 直美 (東北)
同	桃井 雅和 (関東甲)
同	中山 順二 (東海)
同	西藤 安彦 (近畿)
同	島田万里江 (中国)
同	前田マユミ (四国)
同	吉田 斉子 (九州)
事務局長	松本 敏之 (栃木)
事務局次長	小川 典子 (東京)
事務局次長	藤原 清 (東京)
事務局次長	狭石 利美 (東京)
事務局次長	古谷 昌代 (滋賀)

2007年度自治労音楽協議会 年会費の納入のお願い

2007年度会費は2000円です。

これまでの会費については、郵便振込用紙を送付いたしましたので、未納の会員のかたは納入してください。労金でも以下の口座で受け付けます。

なお納入状況はメールでお問い合わせください。

問い合わせ先 ogawan@ubcnet.or.jp

中央労働金庫新宿支店 普通預金 8929145

自治労音楽協議会

郵便振替 00110-8-571236

自治労音楽協議会



北海道FMカンパニー演奏風景

道楽道

連載その14

出会い、交流 融合、ラオス人形劇と読書推進活動支援ツアー

白石 孝（荒川区職労書記長）

7月31日、前号の予告どおり新宿区大久保の労青会館「RS（アールズ）アートコート」で「ぼくらの森には、チェオボン東京公演」を主催した。会場いっぱい170人が来場し、主催者としては満員の観客の前で演じていただくという最

低限のノルマを何とか果たすことができた。しかし、これも予告どおり満員でも12万円の赤字だった。今回はスポンサーがいたので、気持ち的には楽だったが、やはり赤字を出す興業はそうしょっちゅう繰返せない。

ラタナコーン（ニックネームはトー）と毎日7〜8時間の練習を行い、そこから新たなコラボレーションがスタートした。ところが、彼女ははじめ、ラオスに「同化」することを懸命に心がけた。しかし、どうやっても生まれ育ったところの人と一体にはなれないと痛感し、ラオス人に「なりきる努力」を止めたという。そこから新たな両者の関係が生まれ始めた。それぞれが自己主張を続け、衝突することも前向きに捉え、難産の末、日本人のあさぬまさんはラオス人の自然な動き、呼吸を感じ取ることが出来、ラオス人のトーはあさぬまさんの感情や表現を受け入れていった。

あった。その時にはほぼ日本初演の形が出来たそうだが、それでも多くの課題があり、不安ものぞかせていた。そういった経過のなかで、私は公演3日前に初めて二人の稽古場を訪れ、初演のイメージを感じ取ることができた。

ラオス社会の中に普通に在るものを人形などに模し、それを人形らしく、という動物や鳥や、時には擬人に見せるような動き。つまり、小道具は人形ではなく、ただの椰子の実であり、布であり、木の実であり、箒である。それがトーやあさぬまの手にかかると人間や動物や鳥の動きになっていく。

こつこつとした動きが出来るようになるまでの過程が異文化の出会い、交流、衝突、融合、発展だ。文化は基本的には創造的であり、革新的であり、平和・友好的である。

さて、公演から3日後の8月3日、自治労東京都本部「ラオス読書推進活動支援ツアー」参加の23人（後日3人が追加、合流）が成田を飛び立ち、ラオスに向かった。私自身は荒川区職労として初めてラオスを訪問した1997年



インテマとし、ラオスで入手できる素材を活用するプログラムを用意した。数年前までは、日本の教科書とおりきちんと伝えることが大事と思い込んでいた。応用するにしても公式をはずさないようにと考えていた。しかし、「テキストどおり立派なものを作りたいが、ラオスでは材料が手に



ペープサートを実演するラオスの研修生

ラオスの人形役者と日本のパントマイマーがいったいどんな演技をするのか、主催者自身も皆目見当がつかず、不安と期待が交差していた。あさぬま・ちずこさんは5月からラオスに滞在、共演者の

以降、15回目の訪問、そのうち活動交流は10回を数える。4年前から正式に都本部ツアーと位置づけられ、3年前からは交流だけでなく「セミナー」開催となった。セミナーの主催はラオス政府（情報文化省）だが、指導者と資金を自治労が受け持つというあんばいだ。今年

はラオス全国から子ども文化センターおよび図書館を中心とした職員44人が受講した。セミナーは読書推進のための技術を伝えるということで、ペープサートを3年連続してメ

入らないものばかり」という反応が返ってきた。そういった過去の経験を積み重ね、今年は満を持して「リサイクル工作」なども用意した。例えばベクトボトルや牛乳紙パックを利用した人形作りなどだ。確かにベクトボトルは首都ビエンチャンに存在した。ところが、バスで二日かけてたどり着く地方にはそのベクトすらない、だから「学んでも身につかない」というのだ。したがって今年のセミナーでも「リサイクル」への挑戦は未完に終わった。

私のギター人生 パート3

「もっと小さく」 ― 初めてのレッスン

狭石 利美(自治労東京都本部)

東京に出てきた18歳のまだあどけない少年は、ある日街で「ギター教室」の看板を見つけた。「見字自由」と書いてあったので覗いてみた。

生徒は誰もいなくて先生らしき人が「どうぞ」と勧めるので座ったらギターをよこして弾いてみると言う。生まれて初めてのレッスンというわけだ。何を弾いたか忘れてしまったが、そのうち「そこはもっと小さく」と言う。

ギターなんてあんな音の小さな楽器をあえて小さな音で弾くなんてことは、自慢じゃないが一度も考えたことはなかった。それまで一度も音の大きさを意識して弾くことのなかった私には、意識して小さく弾くなんてことは急に言われてもなかなか思っように出来なかったのをよく覚えている。

ピアノシモ、その大切さと大変さ

今でこそ、曲想の表現には音量のコントロールは欠かせない演奏技術であることは、いやになるほど分かっているつもりだが、そのときはそういう感性はまったく持ち合わせていなかった。あれから40年近く音楽をやっているのだが、つくづく思うのは歌でも楽器でも最も難しいのがピアノシモの表現だ。ついでに言わせてもらおうと「ピアノ」『弱く』』というのとは間違いだと思ふ。「弱く」ではなく、「小さく」が正しい。ピアノシモは、ただ音が小さければいいというものではない。小さく、なおかつ音ははつきりとかすれたり途切れたりしない(十分歌い上げることが必要だ。それには最大の集中力と緊張感が要求される。これはやは

り日ごろの練習で意識的に取り組まないと出来ることではない。こんな大切なことを、入会するかどうかも分からない見知らずの一少年に教えてくれたあの教師には、顔も名前も一切覚えていないが今でも深く感謝している。

新聞販売店に住み込みながら朝夕新聞を配り、昼間学校に通う勤労学生にとつて、楽器のレッスンにがよつ時間的経済的余裕などあるわけがなく、そのギター教室にはそのとき以来一度も行くことはなかった。

しかしそこで学んだ「意識的にピアノで弾く」ということの重要さは、「その1」で書いた「アルハンブラが独奏曲」の発見と同じほどの「目からウロコ」であった。

フラメンコへの浮気

それからまた、相変わらず独学でクラシックギターを弾いていたのだが、市ヶ谷の東京新聞販売店にいたときだった。同じ店に後輩が入ってきてその彼が喫茶店でバイト(新聞配達が主で喫茶店は副業)をしていた。

その店に、プロにフラメンコを習っていた先輩がいた。なかなか上手だったので、その先輩のアパートに通つてフラメンコを教えてもらうようになった。そのうちフラメンコにのめりこんで、とうとう古道具屋でフラメンコギターも買つてしまった。

それから数年クラシックギターはほとんど弾くこともなく、フラメンコばかり弾いていた。ラスゲアードに耐えるため右手の爪にはアロナルファー(瞬間強力接着剤)を塗りたくり(もちろん女性のマニキュアのように出来るだけ美しく塗つた)、知らない人からは変な目で見られたりした。

フラメンコギターは、もともと踊りの伴奏として伝えられてきたもので、リズムやテンポそして音の歯切れのよさが特に重要視される。(続く)



都本部参加者の人形劇を観覧するラオスの子どもたち

帰途に着くなかで自然とセミナーの反省に話題は集中する。

その時、人形劇のシーンが頭をよぎった。ラオスの人々の日常の中にあるもの、自然のものを素材に出来るのではないか。来年、もしセミナーを継続開催できるのなら、まずは村に入り、ホームステイしながら素材を探してみようではないか。そこからセミナーが始まる。これもまた「押し付け」ではなく「融合」の一步になるに違いない。

出会い、交流はいつもわくわくさせることばかりだ。だから交流はやめられない。

ところで、来年1月13日には、東久留米市でワンワールド

フェスタ北多摩を開催する。メイン企画はピアノの崔善愛(チェ・ソンエ) & チェロの三宅進のご夫婦を招いてのコンサートだ。チェさんは北九州市で生まれ、在日コリアン牧師の父は指紋押捺反対運動の中心で活動、チェさん自身も押捺を拒否し、再入国許可証が発給されないまま米国に音楽留学、帰国と永住権獲得で話題になった方だ。彼女の演奏、そしてスピーチはクラシックファンでない方にも是非聴いていただきたい。その他、タイミュージシャンのミニライブやおはなし会など丸一日楽しめる企画をたくさん用意している。

自治労東京都本部「ラオス読書推進活動支援ツアー」詳細は都本部ホームページをご覧ください。
都本部公開ホームページ

<http://tohonbu.jp/>

わがまま音楽紀行

「タイの骨」編 その3

明日に向かって撃て！

宮本雄一郎(大阪市在住)

自由をかけたシリポーン
の戦い

音協会員の皆様、お元気ですか。さて、いつものとおり突然ですが、ここで大阪の問題です。大阪では、町の食堂の壁に「春夏冬二升五合」と書かれた紙が貼ってあるのをよく見かけます。では、これはいったいどういう意味でしょうか？

今年の夏は特別に暑くて、私

は10月頃まで半袖シャツを着ていました。11月に寒波がやってきて、夏服からいっき

に冬服に衣替えをしました。つまり今年の季節は「春→夏→冬」と進んでしまったわけで、それで食堂の壁の張り紙を思い出したというわけです。

賢明な音協会員の皆様ですから、もうおわかりですね。そう

です。「春夏冬」は「秋がない」、つまり「商い」です。

「二升五合」は「枳がふたつと半分」つまり「枳枳半升」です。それから、「春夏冬二升五合」で「商いますます繁盛」と読んでもくれ、という言葉のしやれなのです。それにしても地球温暖化で、本当に「秋

ない」四季が繁盛してしまっているのが…。

さて、今回もタイに関する音楽紀行です。

タイに住んで、働いて、いつも感じることはありません。それは、「日本人はタイを知らない」「タイ人は日本を知らない」というギャップです。昔に比べれば情報量は豊富になった

のですが、それでも、その国の文化や習慣を根っから理解することは難しい、とつくづく感じます。そんな文化ギャップを書きためておいたのが、昨年「タイの骨」という本となつて出版されました。どうぞよろしく(ちよつと宣伝でした)。

というわけで、今回は最近タイで見た二ニュースから拾ったものです。

タイにシリポーンという女子



ワットアルン

懲役10年の刑を受け、服役中で選手の庄勝に終わりました。それから数カ月後、シリポーン選手は約束どおり刑務所を出所しました。これが、私が見たシリポーン選手に関する最後のニュースでした。

ボクシングの選手がいます。タイのテレビで、そのタイトル戦中継を見たときのことです。まあ、女子ボクシングという程度のことなら別に驚くようなことはありません。しかし、今回のシリポーン選手の戦いは、まさに特別でした。何が特別か？ 何もかもです。

まず、場所です。シリポーン選手の試合は女子刑務所の中で行われました。世界王座を賭けた試合が、です。WBC女子ライトフライ級のタイトル・マッチが、刑務所内で行われたのです。

次に選手です。いったいどうして普通のリングで試合をやらないのか？ それは、シリポーン選手が受刑者だからです。シリポーン選手は麻薬密売の罪で

内特設リングを映し出します。

じめたのですが、それがついに世界タイトルに挑戦するまでの実力になったというわけです。

しかし、特別なのは、じつは場所でも選手でもありませんでした。この試合がまさに特別だったのは、シリポーン選手がこの試合に勝てば、自由の身になれる、という約束にありまし

た。WBC女子ライトフライ級のタイトル・マッチが、同時に、シリポーン選手が出所できるかどうか、その自由を賭けた戦いだったのです。

シリポーン選手は短い髪、細身で色黒の身体、見たところ少年のような印象を与える選手でした。対戦相手は色白の日本人のアヤカ。テレビは、選手と関係者だけのガランとした刑務所内特設リングを映し出します。

女子ボクシングのタイトル・マッチ、受刑者の挑戦、刑務所内での試合、「勝てば自由」という約束、そして勝利と自由の獲得。そうした一連のニュースと、それを見つめるタイの人々の反応。そこには、タイという国の思いがけない魅力と面白さが出ていたと思います。

自由であることを何よりも大切にしているタイの人々の価値観、底辺に置かれた人間の挑戦とそれへの同情、法も越えるある意味でのルーズさ、などが見事に出てくるように感じます。いや、そのもつと底には、人々の言葉にならない感情や衝動が流れているのでしょう。それは、この地に歌や音楽が生まれ、歌われるのと同じ素地なのかもしれません。



タイフェス

日音協第42回定期総会報告

音協会員の日音協への加入を拡大しよう！

松本敏之（音協事務局長）

日音協（日本音楽協議会、金田光弘理事長代行）は、十一月十日、総評会館で第四十三回定期総会を開催、「私たちはこの一年間をかけて、新たな運動体として出発する準備をしなければなりません」とする活動方針などを決定しました。

人ひとりがどう関わるのか、支部活動をどう強化するのが大切、会員の拡大も大きな課題。今回の総会で今後の運動をどう進めて行くのか、日音協組織の拡大をどう図るのか確認できる総会にしてほしい」と述べました。

第四十回はたらくものの音楽祭の総括を含む、一年間の総括が承認された後、天羽事務局長は、「二〇〇八年十一月をもって日本音楽協議会理事会体制での運営を終えることになった。しかし、理事会体制廃止後も自らの自立した運動体として、私たちは新たな決意を持って日音協運動を継続し、発展させる。この一年間において、理事会に代わる新たな執行体制を確立する。基本的には支部組織が基本となって支部の代表者又は支部から選出された幹事をもって全国代表者会議又は全国幹事会を構成し、理事会に代わる執行部をつくり、運動を支えていく。この運動に賛意を持つ個人会員の拡大を図る。今年度から個人会費は年額一万円とする。また、健全財政を構築す

るために支出の削減を図る。機関紙は、紙面による発行は、音楽祭を目処に廃止し、メールマガジンの発行に切り替える」などを提案。これに對して、代議員の討論が行なわれ

た。

「来年の総会で執行権をもっている理事単産が解散するというのが、これに至った経過は明らかにしていたきたい。日音協運動を支えていただいた四単産、理事に感謝をしている。理事単産が解散しても、何らかの形で私たちの活動を支援、指導いただきたい。日音協の今後の全国幹事会のような態勢は、準備会というようなもので一年間議論し、方針を提起していくことが必要」（東京）。

「総会はいくつかは音楽祭が終わったときに続けて開催しようという話も全国代表者会議でされたが、どうか。音楽祭の開催時期はどうするのか。機関紙をメールマガジンにするというが、音楽祭で本格的になる前に試験的に、こんな形になりま

すよということを示して欲しい」

（青森）。

「執行機関としての理事会はな

くすというが、労働組合に日音協

の応援団になってもらうことを

はつきりすべき。個人会費一万円

では会費を増やすハードルは高

い。全国代表者会議で議論して、

総会にはずすと決められるよう

にお願いしたい」（林野労組）。

「会費が一万円になるが、個人

会員の総会での位置づけを明確に

すべき。労働組合は会員でなく

なっても、応援団として情報を流

すなど支援してもらうということ

ができないか」（岩手）

「連合行動に積極的に参加、と

いう提案だが、中央メーデーは千

葉県と重なっている。千葉県支部

は、コミュニティユニオン、一人

ではいれる労働組合で、日音協の

うたを一生懸命うたっている。あ

なたの組合で機関紙をとれる賛助

会員になりませんか、という呼び

かけを」（千葉）

「組織や運営だけでなく内面的、

理念、精神性を検討していた

だきたい」（九州）

「秋田音楽祭について、十一月

二十八日に現地実行委員会を開催

して取り組んで行く。オーブンス

ペースの場所で、音楽をやる形。

内輪でやるのではなく、周りの人

にアピールする形にしたい。

ニュースなどで情報を伝えてい

く」（秋田）。

これに對して、天羽事務局長が、

「理事単産の四単産から、それぞれ

今の日音協の今の形のかかりを維

持して行くことは組織的に無理なの

だと言われている。理事会解散後の

執行体制は、来年決めることになる

が、準備会をつくるという提案

は、賛成。今後は、自治労音協など

の単産音協は、構成メンバーから同

意を得て日音協の単産音協支部とし

て登録してほしい」「来年以後の労

働組合との関係については、理事会

の中で、いやもうこれでいいさつ

ぱりよと言っている組織ばかりでは

ない。が、いったん理事会制度は廃

止するということとは決定。その後の

労働組合との関係はこれからの作業

だ」などと答弁。活動方針は圧倒的

な賛成多数で原案とおり決定されま

した。

具体的取り組みとしては、第四十

一回はたらくものの音楽祭は、二〇

〇八年五月三十一日、六月一日の日

程で秋田市で開催することになりま

した。ブロック合宿についても、引

き続き開催することになりました。ま

た、創作会議合宿を開催することと

しました。総会では最後に、金田理事

長代行（林野労組）、飯島事務局長

をはじめとする理事会体制を確認し

て、閉会しました。一年後は産別労

組で構成する日音協理事会が廃止さ

れることが決定され、これから自治

労と日音協との関係をどのようにし

ていくか、私たち自治労音協にも問

われてきます。それは、自治労との

正式な関係をつくることができずに

きた、自治労音協自身の問題でもあ

ります。自治労執行部ともきちんと

話しあつていく必要があります。ま

た、新しい日音協がきちんと活動で

きるために、日音協会員の拡大に自

治労音協としても努力する必要があります。

自治労音協の会員で、日音

協の会員になつていない人は、年会

費一万円は決して安くありません

が、音楽運動を支えるためにぜひこ

の際入会をお願いします。

同時に、独自の組織としての自治

労音協のほかに、いわば日音協自治

労音協支部みたいなものを立ち上げ

ることが、日音協総会での天羽事務

局長発言として求められています。

いわば、二枚看板ということになる

でしょうが、積極的に受け止めて、

自治労音協の幹事会を開催して、議

論していかねければなりません。会

員のみなさまのご意見、ご質問、ご

批判をお待ちしています。

「最初に」と書きましたが、話題

はもう一つで終わります。

はたらくものの音楽祭の日程も決

まりましたから、今から、参加体制

を整えて、新しい日音協の発足につ

ながる立派な祭典として成功させま

しょう。

労働組合との関係は中央単産との関係をどう作るのかも大きな課題。理事会でも今後一年間どういう運営、かわりができるのか一緒に議論したい。今後の日音協の活動、一

い。

い。

い。

い。

い。

い。

駅前でライブやりました♪

出演料はもらえないが、会場代を取られない

自治労音協滋賀支部事務局長 西藤安彦(滋賀県守山市職)



「千の風になって」を歌う西藤さんはきままる状態でした。

勤労感謝の日である11月23日(祝)に、私の地元であるJR守山駅に隣接している守山駅前総合案内所のフロアイベントとして、午後2時から約1時間、滋賀支部の幹事である杉本秀和君(守山市職)を含む五人のメンバーでライブを行いました。

この駅前総合案内所というのは、市の出先機関で、観光・交通案内、物産の展示・販売、また住民票等の各種証明の交付も行なっています。その案内所のフロアで、昨年の日音協近畿支部で出演したのに引き続き、今年もライブを行なった訳ですが、この日は滋賀でもかなり寒かったので、野外ではなく室内でよかったと出演者一同ホッとしていました。

まずは、「DEPAPEE」の「ビーユニットである杉本君の「凸凹(でこぼこ)」の演奏で始まり、心地いいアコースティックギターの音色に会場の皆さんもウットリしていました。演奏だけでなく、杉本君のMCがおもしろく、観客の心をわしづかみです。

次に、私のソロコーナーだったのですが、いつものようにエ

また、何を隠そう私は高校時代コーラス部だったので、このように独唱したのは今回が初めてでした。お陰で極度の緊張による滝のような汗が、滋賀でもかなり寒かった一日を全く感じさせないステージとなったのは、いつまでもありません。そうして最後は、出演者全員でこの日のために練習した往年の名曲「ガンダーラ」と「木綿のハンカチーフ」を演奏し、駅前ライブを終了しました。

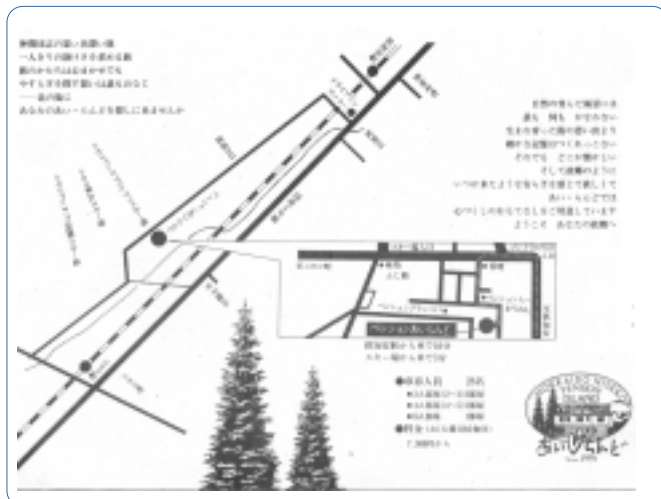
態



「演奏だけでなくMCがおもしろい杉本君は観客の心をわしづかみ

るいる駅前総合案内所、今後も利用させていただきま

会員のみなさまのお越しをお待ちしています！



石川加鶴子さんの笑顔と美行さんの家庭中華料理でおもてなし！
倶知安駅までお迎えします！
パウダースノーのニセコアンヌプリスキー場は格別です！裏山のリフトがお部屋からも見えます。ペンションの真正面に見える羊蹄山近くには温泉がたくさんあります。
夏はラフティングで有名になり、海外からのお客さんも増えました。



0136(23)4322
7 蛭田郡倶知安町山田16312